

# U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

**米国 早いペースでの在庫増加を示した在庫・売上統計(04年11月) 発表日: 05年1月14日(金)**

~ 需要に見合った在庫増となっており在庫水準は適切に管理されている ~

(No. UI - 149)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001, 4518 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

企業在庫 (Manufacturing and Trade Inventories and sales)

	企業在庫			企業売上			在庫率		
	Inventories	製造業 Manufacturers	小売業 Retailers	卸売業 Merchant wholesalers	Sales	Inventories/ Sales Ratio	製造業	小売業	卸売業
03/11	+0.4	0.1	+1.0	+0.3	+0.9	1.341	1.283	1.549	1.178
03/12	+0.3	+0.1	+0.2	+0.8	+1.1	1.331	1.259	1.554	1.175
04/01	+0.2	+0.3	0.0	+0.2	+0.4	1.328	1.263	1.544	1.167
04/02	+0.8	+0.6	+0.7	+1.2	+0.9	1.327	1.272	1.541	1.157
04/03	+0.7	+0.4	+1.2	+0.5	+3.2	1.295	1.225	1.525	1.131
04/04	+0.7	+0.5	+1.3	+0.2	0.1	1.305	1.232	1.557	1.123
04/05	+0.7	+0.7	+0.1	+1.4	+0.8	1.303	1.234	1.536	1.135
04/06	+1.1	+1.0	+1.2	+1.1	+0.2	1.314	1.232	1.567	1.146
04/07	+1.0	+1.0	+0.7	+1.5	+0.9	1.315	1.233	1.561	1.154
04/08	+0.7	+0.7	+0.5	+1.1	+0.6	1.317	1.230	1.573	1.154
04/09	0.0	+0.1	0.5	+0.6	+0.3	1.313	1.245	1.540	1.151
04/10	+0.4	+0.9	0.4	+1.1	+1.4	1.300	1.236	1.517	1.146
04/11	+1.0	+0.7	+1.1	+1.1	+0.4	1.308	1.239	1.533	1.152

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

**在庫は前月比 +  
1.0%、売上は同  
+0.4%**

11月の企業在庫は、前月の売上高の高い伸びにより前月比+1.0%と加速し市場予想の同+0.6%を上回った(10月が速報の同+0.2%から同+0.4%に改定)。川上の製造業、川中の卸売業段階で在庫の増加が続くなか、在庫が減少した川下の小売業が3ヵ月ぶりに増加に転じた。特に、自動車・同部品が同+1.6%、家具・家電が同+1.2%、一般小売が同+1.5%と全部門で増加した。一方、企業売上高は前月比+0.4%と在庫の伸びを下回った。この結果、在庫率は1.308ヵ月と前月から0.008ヵ月上昇したものの、過去最低水準で推移しており、在庫は適切にコントロールされている。

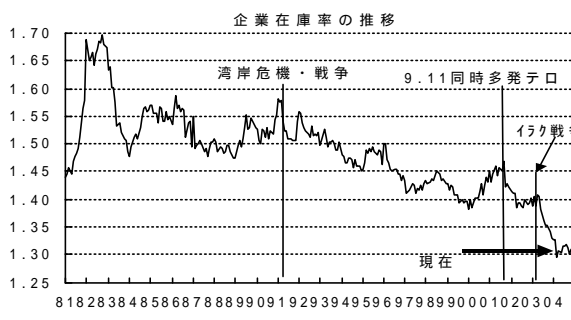
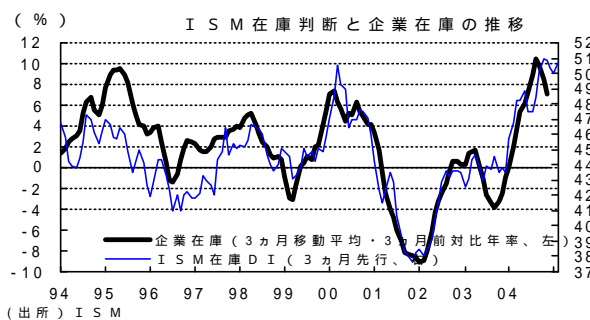
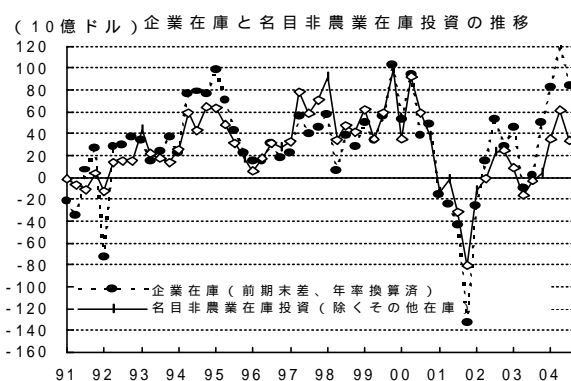
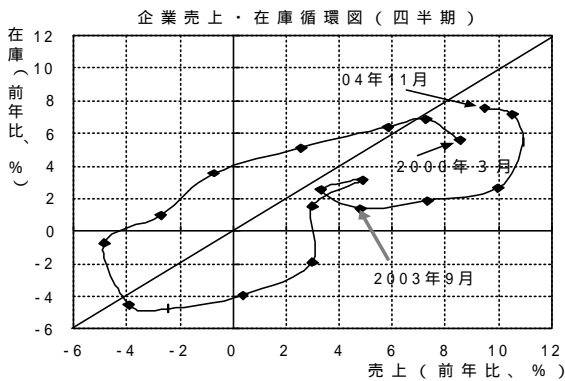
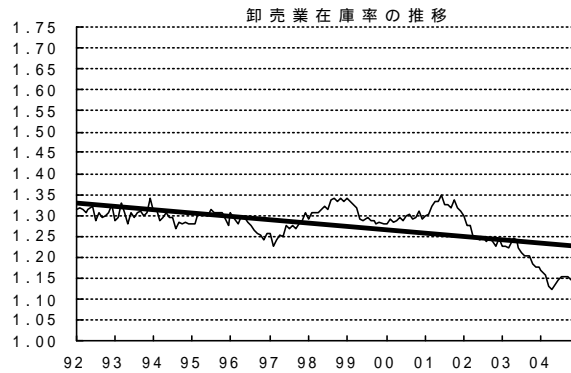
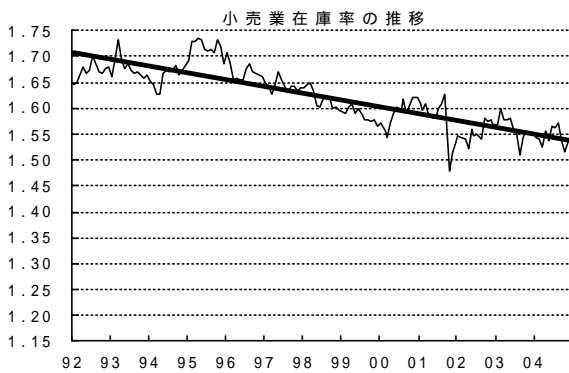
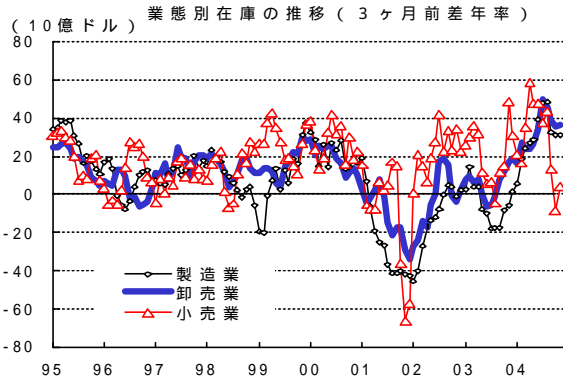
企業は売上が増加傾向を辿るなかでその水準に合わせた形での在庫増加にとどめているため、在庫率が低い水準に抑制されている。このことから、企業は需要を上回るペースでの在庫の積み増しには依然として慎重な姿勢を崩していないと判断される。

**管理能力の向上に  
伴う低い在庫水準  
が米国景気の持続  
的な拡大の可能性  
を高めている**

在庫率をみると、流通改革によって最も競争の激しかった卸売業では90年代前半から既に低かったが、足下で再び低下傾向を強め3月には1.1ヵ月程度にまで低下し、足下11月まで維持されている。製造業は、90年代前半には約1.65ヵ月だったが、3月には1.2ヵ月程度まで低下し、足下11月でもその水準に維持されている。原材料価格の上昇等のコスト増加要因があるなかで、需要に見合った在庫の増加にとどまっている。消費者に最も近い小売業では、商品を陳列する必要があるため水準が一番高いものの、90年代の約1.7ヵ月から足下では競争激化を背景としたコスト削減圧力の強まりから1.53ヵ月程度まで低下している。全体でも、在庫管理能力の向上によって90年代前半の約1.5ヵ月から足下で1.30ヵ月程度まで低下するなど、企業は効率化し収益性が向上している。このことは、足下で再び上昇を始めた原油価格や原材料価格の高止まりの影響を吸収し、インフレ圧力を緩和しよう。また、在庫管理能力の向上は経済の柔軟性を高め景気の調整を軽微なものにとどめる効果も期待できることから、米国景気の持続的な拡大の可能性を高めている。

在庫の増加ペースは  
2005年初にかけて  
緩やかなものに

今後に関しては、国際的な価格競争が激化している状況のもと、企業のキャッシュフローが増加しておりICTタグの導入など情報化投資を行い易いことから、在庫管理能力の向上が続く可能性が高い。一方、需要面では個人消費などの最終需要の拡大が予想されるものの、2005年初には設備投資減税の終了に伴い設備投資が一旦急減するリスクがある。特に、ハイテク部門では需要の伸び悩みから稼働率が横這い推移しているため設備投資が抑制されよう。このような中、売上高は前年比で鈍化傾向を辿ると予想される。また、投入コストの上昇によってコスト削減圧力が残存するため、企業が在庫の積み増しに慎重な姿勢を維持すると見られ、2005年初にかけて在庫投資の増加ペースが抑制されよう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。